

■石坂泰三 (第一生命)社長となり、〈敗戦〉後の公職追放解除後、財界の元締めとして高度成長への道をリードした。

いしざかたいぞう

帝国大学始・1886＝ 東京下谷で、埼玉県の旧家出身で漢学塾を開くも没落していた石坂義雄の三男に生まれる。母はコト。

6人兄弟で、母ことも針仕事して生計を立てるような家庭に育ち、

帝国憲法発布1889＝ 3歳：

のちに陸軍少将となる長兄は官費の士官学校へ進み、次兄は丁稚奉公に出されるなか、

日清戦争始・1894＝ 8歳：

日清戦争終・1895＝ 9歳：

生来目が悪くて士官学校進学も望めず、

子規句歌革新1898＝12歳：小学校を卒業。府立四中を受験して失敗、丁稚奉公に出されるどころ、必死の懇願と長兄のとりなしで、
Bushidou・・1899＝13歳：府立一中受験を許され、合格。

猛勉強に励み、

日露戦争始・1904＝18歳：成績優良で卒業。第一高等学校へ進学。

日露戦争終・1905＝19歳：

一張羅の制服で通す状態ながら、充実した高校生活を送り、

アヲキ創刊・1908＝22歳：東京帝国大学法科大学独法科へ進学。

内村鑑三の聖書研究会に参加して決定的影響を受ける。

大逆事件判決1911＝25歳：_高等文官試験に合格し、卒業とともに、出世確実な通信省に入省、貯金局に配属。

明治天皇没・1912＝26歳：

大正政変・・1913＝27歳：官吏の娘と結婚。

第一次大戦始1914＝28歳：同僚より早く高等官になるも、部下の不祥事で譴責処分を受けるなど、官僚生活に幻滅していたところ、

21ヶ条要求・1915＝29歳：

局長になった直後、_第一生命創業者矢野恒太からの引抜き話に恩師の推薦があると、妻の反対を押切り、

退官して第一生命に入社、矢野の秘書役になり、雑用にとまどううち、

民本主義・・1916＝30歳：引き抜き条件の約束通り、2年間の欧米外遊に出されるが、第一次大戦激化で、

ロシア革命・1917＝31歳：1年で帰国。_支配人心得となり、

大暴落・・・1920＝34歳：_取締役支配人となる。

原敬首相暗殺1921＝35歳：

水平社結成・1922＝36歳：

当時の超一流の企業家が揃う社外重役らから経営その他多くのことを学び、

ついに第一生命を業界2位までに成長させるが、

あくまでも矢野が表の顔であったことから、

満州事変・・1931＝45歳：

帝人疑獄事件1934＝48歳：***ようやく専務取締役となり、**

日中戦争始・1937＝51歳：門野重九郎会長の欧米視察団に参加、

健保+総動員1938＝52歳：**_社長に就任。**

大政翼賛会・1940＝54歳：東京芝浦電気取締役に就任、

日米開戦・・1941＝55歳：

戦時統制が進むなか、手腕を発揮することはできなくなるが、その間、工業倶楽部専務理事、第一相互貯蓄銀行会長、生命保険協合理事などの役職を歴任。

敗戦・・・1945＝59歳：

新憲法公布・1946＝60歳：次男戦死の知らせに悲嘆。***会長の矢野に従って社長を辞任。公職追放され、**

長男の尽力もあって、

_早々と解除されるも、第一生命からは敬遠され、生活も困窮するなか、明るく生きるを実践するうち、

三大事件・・1949＝63歳：**労使紛争が泥沼化した東芝の再建を懇請され、社長に就任するや、大量の人員整理を行い、**

朝鮮戦争始・1950＝64歳：朝鮮戦争特需を受けて、黒字も達成、

独立回復・・1951＝65歳：

メデー事件・1952＝66歳：売上100億、2割配当の大企業の体裁を確立して、_再建に成功。

TV放送始・・1953＝67歳：この頃、吉田首相から蔵相就任の依頼があったらしいが、一切表にすることなく固辞。

自衛隊発足・1954＝68歳：早くも遺書めいた文章を書いたりしていたところ、

55年体制始・1955＝69歳：電業社機械製作所を吸収合併して、***東芝の成長を決定的にすると、日本生産性本部の初代会長に就任し、**

国連加盟・・1956＝70歳：妻が死去。予定されていた三鬼隆八幡製鉄社長が事故死し、_急遽推されて経団連第2代会長となり、**財界の中心的存在となる。生産性本部トップ・マネジメント視察団長として訪米、視察ブームを起こす。**

なべ底不況・1957＝71歳：東芝社長を退き、会長に就任。

イスラエル・1958＝72歳：アラビア石油の設立に尽力し、会長に就任。

安保闘争・・1960＝74歳：

日常は多忙を嫌い、家庭にあつては多くの古典の書写に打ち込むなど静かな暮らしぶりを通し、

TV宇宙中継始1963＝77歳：**_日本工業倶楽部理事長、**

東京オリンピック1964＝78歳：ボーイスカウト連盟総裁に就任すると、その育成運動にのめり込み、

大学紛争始・1965＝79歳：**東芝会長を退任し、日本万国博覧会協会会長、**

この他、国有財産中央審議会会長・保険審議会会長に就任した。日本原子力事業・埼玉銀行会長のほか数十社の取締役・相談役・参与などを兼ね、日経連顧問、経団連・日本生産性本部名誉会長となった。

美濃部都知事1967＝81歳：

霞ヶ関ビル・1968＝82歳：**_経団連会長を辞任し、**

大阪万博・・1970＝84歳：***万博を大成功させて、**

角栄金脈辞任1974＝88歳：狭心症の発作で入院するも、宮中参与であったことから、

クランブル事件1975＝89歳：元旦に宮中参賀に赴き、_没した。

インターネット、「日本の戦後企業家史」、